

天文施設
「善兵衛ランド」
(貝塚市)

みゅ〜
ザ・見遊じあむ

48

直径6.5メートルの天体観測ドームがあります



衛は、眼鏡職人として生計をたてながら、オランダから望遠鏡を取り寄せて研究を重ねました。38歳の時、自前で初めての望遠鏡を完成。最初は板で造った筒にレンズをはめたものでしたが、その後も紙筒や竹筒な

江戸時代の天文学者
岩橋善兵衛の業績を展示

今年2009年は世界天文年。ガリレオが望遠鏡を宇宙に向けてから400年目にあたります。日本でも江戸時代、大阪の貝塚に岩橋善兵衛という有名な天文学者がいました。貝塚市には「善兵衛ランド」という市立天文施設があります。1756年に生まれた善兵

衛は、眼鏡職人として生計をたてながら、オランダから望遠鏡を取り寄せて研究を重ねました。38歳の時、自前で初めての望遠鏡を完成。最初は板で造った筒にレンズをはめたものでしたが、その後も紙筒や竹筒な

し、江戸時代の天文学の発展に貢献しました。この時に作成した望遠鏡や観測機器は、大阪府の有形文化財に指定され、「善兵衛ランド」に常設展示されています。



岩橋善兵衛の像

ミュージアムメモ

▶所在地/貝塚市三ツ松216▶交通/南海本線貝塚駅から水間鉄道で三ヶ山駅下車。東へ徒歩約500メートル▶開館時間/日月火・9時~17時、木金土・9時~21時45分▶休館日/水曜日、毎月月末、年末年始▶入館料/個人の見学は無料▶連絡先/072-447-2020

「いのちの山河-日本の青空II-」



岩手・旧沢内村の
「生命尊重」行政を描く

取り上げた書籍はいくつかありますが、文庫本では「あきらめを希望に変えた男」(及川和男著、日経ビジネス文庫)がよく知られています。大阪では10月11日に、エルおおさか(大阪府立労働センター)で完成上映会が予定されています。

岩手県・沢内村。平成の町村合併によって、いま西和賀町という自治体名が変わっています。地方自治の歴史に沢内村は大きな足跡を残しています。1960年代に全国に先駆けて老人医療無料化や乳幼児死亡率ゼロを実現したのです。その先頭に立ったのが当時の深沢晟雄(ふかざわ・まさお)村長でした。いま、舞台となった沢内病院の前には深沢晟雄村長の銅像と、「老人医療無料発祥の地」の碑(いのちの灯)が建てられています。

この「山河」は深沢晟雄村長をモデルに、憲法25条に焦点をあてた映画です。ストーリーは「豪雪、貧困、多病」という、暮らしに大きな問題を抱えていた山間の小さな村。長く無医村であったこの村に戻ってきた中沢良雄は、村のために悲惨な状況を変えようと立ち上がり、村長となった良雄は「生命尊重」の信念をかげ、憲法25条を根拠にして、村民のための施策を実現していきます。村長夫婦役に長谷川初範さんと、とよた真帆さん。村長の父親には加藤剛さん。

このシネマ ガラエイガ

大阪の戦跡を歩く

第47歩

被爆石
(茨木市)



広島から贈られた被爆庁舎の石

茨木市は戦後、原子炉設置に反対する市民の大きな運動が繰り広げられたところで、原水爆禁止運動とともに歩んできたまちでもあります。1984年に市議会で非核平和都市宣言を決議した茨木市は、1991年に広島市より被爆した石を譲り受けました。被爆当時、広

島市役所の前庭にあった敷石で、「被爆石」として茨木市役所の近くにある広場に展示しています。その横には、広島市長と茨木市長のメッセージを書いたパネルを配置し、「核兵器廃絶と世界の恒久平和を訴える生き証人として、茨木市民のみならずとも生き続けることを願っています」という言葉が記されています。

撰津 河内 和泉 三國誌 おおさか

48 市区 (大阪 福島)

福澤諭吉と堂島浜・中之島 緒方洪庵の「適塾」で 苦学の青春時代を過ごす

一万円札の肖像で有名な福澤諭吉は、大阪で生まれ、青春時代を中之島界隈で過ごしました。1835年(天保5年)1月に、堂島浜にあった豊前国(現在の大分県)中津藩の蔵屋敷で下級武士の次男(末っ子)として誕生。諭吉という名前は、儒学者であった父親が付けたもので、清(当時の中国)の法律書「上諭条例」を手に入れた日の夜に生まれたことに由来します。父は儒学に通じた著名な学者でしたが、身分差別的厳しかった藩では名を成すこともできず、諭吉が幼い頃に亡くなりました。「門閥制度は親の敵(かたき)でござる」「天は人の上に人を造らず」という、諭吉の言葉に象徴され



青年時代の諭吉



堂島浜・中津藩邸跡地に立つ諭吉の生誕碑

る自由主義の思想は、封建的身分差別に苦しめられた自らの境遇から生まれたものです。諭吉は20歳を過ぎた頃、兄が亡くなって福澤家の家督を継ぐことになりました。しかし国元には帰らず、母親以外の親類の反対を押し切って緒方洪庵の「適塾」で学び続けました。家は多額の借金を抱えていましたが、父の蔵書や家財道具を売り払って返済。学費を払う余裕もなかったのに、外国書の翻訳をする名目で「適塾」の食客(住み込み学生)になりました。1858年(安政5年)、江戸の中津藩邸に開かれた蘭学塾の講師となるために江戸に出、その後、私塾「慶應義塾(後の慶應義塾大学)」を創設しました。堂島浜の藩邸跡地には、諭吉の生誕記念碑と、「天ハ人ノ上ニ人ヲ造ラズ、人ノ下ニ人ヲ造ラズ」と記した碑が建っています。

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

将来の戦争は 勝利に終わるのではなく 相互の全滅に終わる ラッセル

元禄7年(1694年)9月28日の夜、大坂の地にあった芭蕉は体調をこわして床に臥し、翌日の夜に予定されていた句会に出席できなくなりました。この句は、人を遣わせて書き送ったもので、芭蕉が起きて創作した最後の作品になりました。その後、芭蕉は亡くなる4日前の10月8日、門人に「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」の句を書き取らせました。これが辞世の句とされています。

秋深し 隣は何をする人ぞ 松尾 芭蕉